

平成 27 年度 第 1 回全国委員会議事録

- 1 期 日；平成 27 年 8 月 7 日（金）
- 2 会 場；奈良県桜井市・桜井市立中央公民館 視聴覚室
- 3 常任委員出席者；釜井、池田、根岸、雨尾、中村、安藤、豊田、松本、和田、伊勢、恒松、多田、平、坂上、村田
- 4 定数確認；定数の 2 / 3 以上の出席・委任状があるため成立
- 5 内 容
 1. 挨拶；全国高体連 F 部長（釜井）
 2. 歓迎の挨拶；奈良県 F 部長（松長）
 3. 後催地挨拶；山口県実行委員会（山口県実行委員会；相川）
 4. 27 年度総体について（奈良県実行委員会；村田）
 - ・競技、式典、用具検査、競技会場、練習会場、駐車場、救護について説明あり
 5. 40 回選抜大会について（山口県実行委員会；本間）
 - ・期日、競技、式典、会場、交通機関、参加申込み、宿泊、プログラム等について説明あり
 6. 28 年度総体について（山口県実行委員会；本間）
 - ・期日、競技、日程、競技会場、諸会議日程、練習会場等について説明あり
 7. 議事
 - ①28 年度以降の全国大会について（安藤）
 - ・28 年度以降の総体、選抜大会について説明あり
 - ②報告事項
 - (1) 27 年度前期専門部行事報告（安藤）
 - ・前期専門部行事について説明あり
 - (2) 競技委員会報告（伊勢）
 - ・第 1 回競技委員会の内容について説明あり
 - (3) 27 年度前期全国高体連報告（釜井）
 - ・大会経費削減、32 年度総体について説明あり
 - (4) 27 年度前期日本協会報告（釜井）
 - ・定期総会で理事の信任が行われ、高体連からは釜井部長が入っている。個人登録費の値上げとその影響、不正会計の処理問題のその後の状況等について説明あり
 - ③協議事項
 - (1) 26 年度決算報告（根岸） 【承認】
 - ・収入、支出の各項目について説明あり
 - ・監査報告；坂上監事より適正に処理されていた旨の報告あり
 - (2) 27 年度行事予定案（安藤） 【承認】
 - ・大会、後援事業、会議、強化普及事業（恒松）について説明あり
 - (3) 27 年度予算案（根岸） 【承認】
 - ・収入、支出について説明あり

- ・事業活動支出強化合宿費の管理費支出の増額は、海外研修打合せ旅費等によるもの
- ・運営補助金の増は、選抜大会本部役員の旅費を専門部で持つことに変更したため
- ・広報費の増は、消費税の増税分と HP 更新回数の増加によるもの

(4) 競技委員会提案事項

☆選抜大会に三種目学校対抗戦導入について(伊勢)

- ・導入に際しての出場団体枠、タイムテーブル、用具検査、監督の兼任、参加料について説明あり

(質問・意見)

- ・監督兼任について詳しく説明して欲しい
- 基本的には1チーム1人の監督が望ましいが、これでは最大6名の監督が必要になる。現状では学校から6名の監督はとても難しい。最低男女各2名の監督がいれば、試合成立の要件を満たせると考えた
- ・都道府県提案事項にも導入反対意見があるので、そちらに回答した後に再度審議する(一時保留)

(5) 総務委員会提案事項

☆登録方法の変更について(和田)

- ・USB方式からメールもしくはHPに登録様式のみアップして利用してもらう案を検討している。来年度から別形式での登録方式に改めたい。2月の常任委員会で確定し、お知らせする

☆加盟登録費の値上げについて(根岸)

【承認】

- ・消費増税の増税、選抜大会補助の増額分等を合わせて130万円程支出が増えている。その分を補うために現在の1万5千円の登録費を2万円に変更したい

(6) 都道府県提案事項

1. エリートアカデミーに準ずる生徒に対して特別枠を設けて欲しい(東京都・田中先生)

- ・提案趣旨について説明あり
- 現状では準ずる生徒に対して特別枠を設けることはしない。日本協会に対して、JISSの利用規程を明確にしてもらうことを申し入れて行きたい。そこで問題点が出て来れば対応を考えたい
- ・TAP事業(中学生対象)に該当する生徒が高校に進学してきたときはどう対応するのか
- 進学先でフェンシングを継続する場合は、エリートアカデミー選手と同じような対応をする必要はあると考えている

2. 全国選抜大会三種目学校対抗導入について反対である(東京都・田中先生、宮崎県；濱上先生)

- ・提案趣旨について説明あり
- 地方予選のやり方は工夫する余地があるのではないかと。ブロック予選も予選方法、日程もそれぞれのブロックで工夫して実施して欲しい。参加費も種目が増える分予算も増える。それで対応して欲しい。
- ・地方は考えているほど参加料が増えるとは思えない。審判増等を考えると運営はかなり厳しいのではないかと
- ・監督の問題も4人以上の監督を出すのは難しいと思われる
- 全ての学校に6チーム出してくださいというわけではない。県単位で男女各3チームを出してもらえばよいと考えている
- ・三種目学校対抗導入の趣旨については賛同できるが、現状では地方予選・ブロック予選の実施方法に不安が多いため導入に対して賛同できない状況になっている。具体的な方法を共有できる情報をHP等に上げてもらうと予選の見通しがつくと思われる。またフルレールの決勝戦まで上がった選手が、すぐに次のエペ・サーブルに出場し、勝ち上がってゆくことに新人チームなので体力面で不安がある。そこも含めて検討して欲しい。
- ・監督の兼任の件で、全種目出場した場合最低4人の監督が必要になる。おそらく4人の出場は学校が認めてもらえないと思う。県予選の日程は工夫の余地はあると思うが、現実問

題からすると山梨大会からの導入は無理があるのではないかと思う

- ・実施については難しいという意見が多いため、常任委員会に持ち帰り再検討したい。この件については保留としてはどうか
- ・秋田選抜、神奈川総体と三種目団体戦の導入を提示してきた。地方予選の問題点も見えてきたので改善点をHP等で提示する方向で山梨大会からの実施を認めてもらえないか
- ・監督が4人必要な理由がよく分からない

→提示させていただいたタイムテーブル案では3日目のエペ・サーブル準決勝が同時並行で実施予定になっている同校から4チーム全てが準決勝に進んだ場合、監督不在で試合をすることがない状態にするためには4人の監督が必要と考える。高体連としては、監督不在の試合は認められない

※28年度山梨大会から三種目導入について決を採る；反対17 保留17 賛成5

→継続審議とする

(7) 27・28年度常任委員役員について

- ・3月の全国委員会で承認済み

(8) その他（釜井）

1. 共催申請方法の変更について

- ・選抜大会は全国高体連の共催を申請している。これにより先生方の出張が認められている。開催地と専門部でやり取りをしながら提出している。この申請方法に変更があった

2. 経費削減について

- ・高体連報告で説明した内容を実施している

3. 2020年インターハイ問題について

- ・開催日時は、8月10日～24日の間、もしくは9月の4連休で実施して欲しいと全国高体連から来ている。開催地、実施内容については専門部で考えて欲しいといわれている。この件については、部長、副部長で働きかけていきたい

8. 27年度加盟登録状況について（和田）

- ・加盟登録の現状について説明あり